

国土造りプロジェクト構想 9

～安全・快適で豊かな国土造りのために～

【瀬戸内クルーズネットワーク構想】

～クルーズ文化の浸透と瀬戸内の地域振興～



2022年3月

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会 (JAPIC)
国土・未来プロジェクト研究会

目次 Contents

1. 瀬戸内地域の現状と課題
2. 海外におけるクルーズ参考事例
3. 瀬戸内の小型クルーズとは
－クルーズ推進 3つの提言－
4. 今後の事業展開に向けて

瀬戸内地域の現状と課題



提供：岡山県観光連盟



提供：広島県



提供：瀬戸内Finder
(<https://setouchifinder.com/>)

観光振興の4大要素：気候・自然・食事・文化が充実

観光振興による経済効果

◆現状の地域経済

観光関連業がGDPに占める割合⇒ **2%**

出典：観光庁 旅行・観光産業の経済効果 に関する調査研究（2019年度）

◆瀬戸内の観光ポテンシャル
⇒ 観光先進国（スペイン等）並み

GDP比10%の成長が期待



GDP2.5兆円の増加 35万人の雇用創出

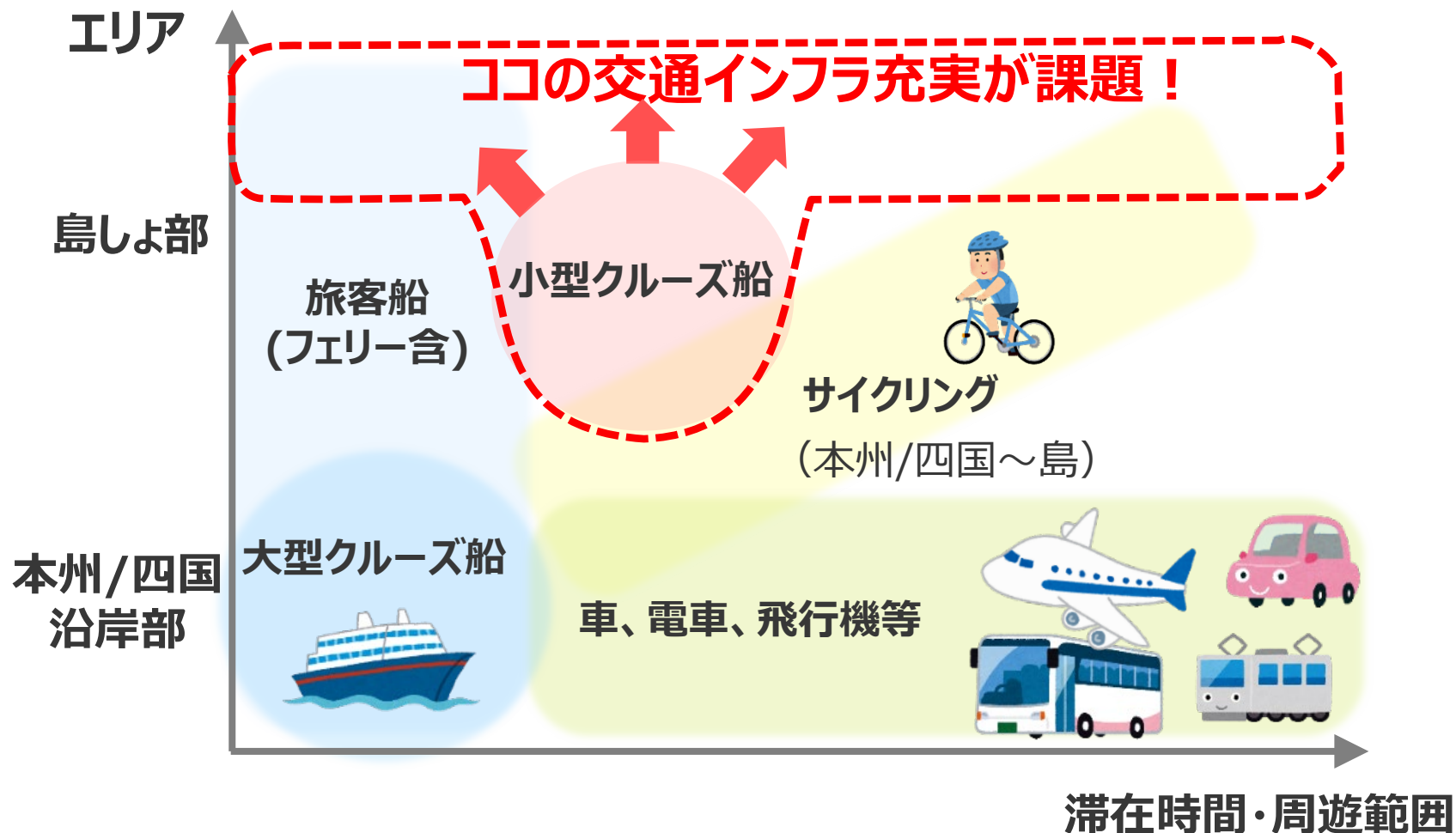


提供：岡山県観光連盟



提供：photo AC

瀬戸内エリアへのアクセス性



瀬戸内の魅力である島しょ部へのアクセス性を高めるには
小型船舶が重要！

海外における小型船クルーズ

◆欧州 リバークルーズ

7~10日程度を主流にしたプレミアムクラスのクルーズ

移り変わる風景や旧市街の散策

◆ハロン湾クルーズ

乗客数 250万人/年

観光船（船内宿泊不可）：331隻、クルーズ船（船内泊可）：202隻



提供：Viking Cruises

欧州 リバークルーズ



提供：iStock

ベトナム ハロン湾

瀬戸内の小型クルーズとは

提言1

既存の小型船舶を活用したカジュアルクルーズ
(課題) 定期航路では多くの島をめぐることが困難

船会社・自治体・旅行会社をマッチングして商品開発
「島たびプラットフォーム」

提言2

プチ贅沢を楽しむ！プレミアムクルーズ
(課題) 宿泊できる小型船舶が不足

地域でクルーズ船建造・運用 **「せとうちプラチナクルーズ」**

提言3

魅力ある島めぐり！
(課題) 観光客の受入れ環境の不足

観光客と住民が共生する **「にぎわいみなとまちづくり」**

提言 1

「島めぐり」の活性化！「島たびプラットフォーム」

- ◆ 短期間で多くの島めぐりが可能な
カジュアルクルーズを提供

ワンストップ調整支援

港湾管理者

多島クルーズ事業のマッチング・
事業化推進の機能を持つ

島たびプラットフォーム

自治体

島めぐり観光客
受け入れコンテンツ

旅行会社

島たび企画

船会社

活用可能な小型船
(予備船を含む)
人材(船員)

提言 1

想定する島たび企画イメージと効果

世界遺産・軍港と海軍カレー・みかんの香りと星空を楽しみ、瀬戸内のハワイでイルカウォッチング！4島をめぐる贅沢な2日間！



出典：NTTインフラネット株式会社

- ・3県をまたぐ航路（乗り換え6回）
- ・定期航路利用では2泊3日



新規航路で1泊2日に短縮！

提言2 「せとうちプラチナクルーズ」

欧米インバウンド、国内シニア層をターゲットにした「**プレミアムクラス**」のクルーズ



- 船の規模：1000トン程度
- 乗客数：100～150名
- 比較的高級なビジネスホテル並みの宿泊設備

提言 2

地域資本小型クルーズ

◆経済効果

寄港地：3~4万円/人・日 母港：42.2万円/人・日

・海外 & 大型クルーズ寄港効果

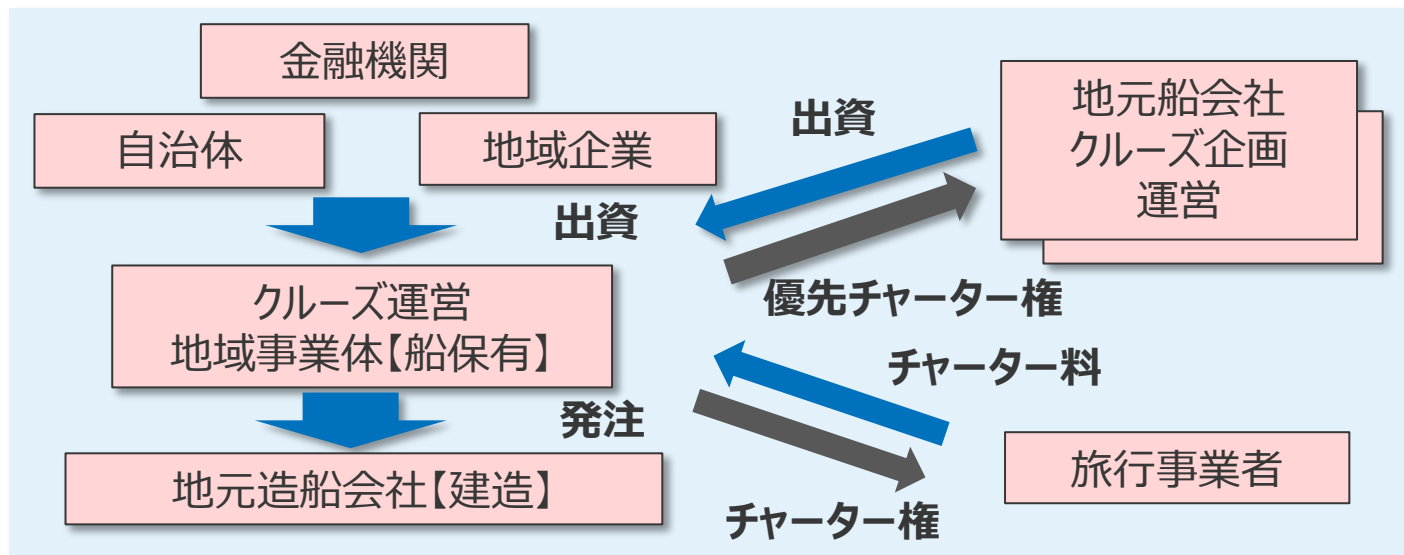
約46億円/年（全寄港分実績試算）

・地域資本小型クルーズ建造 & 運行効果

約33億円/年・隻+建造費15億円/隻

試算条件）1回あたりの乗船者 100人、毎週出港、寄港地は3か所

◆官民連携企業体 & 上下分離方式による事業運営



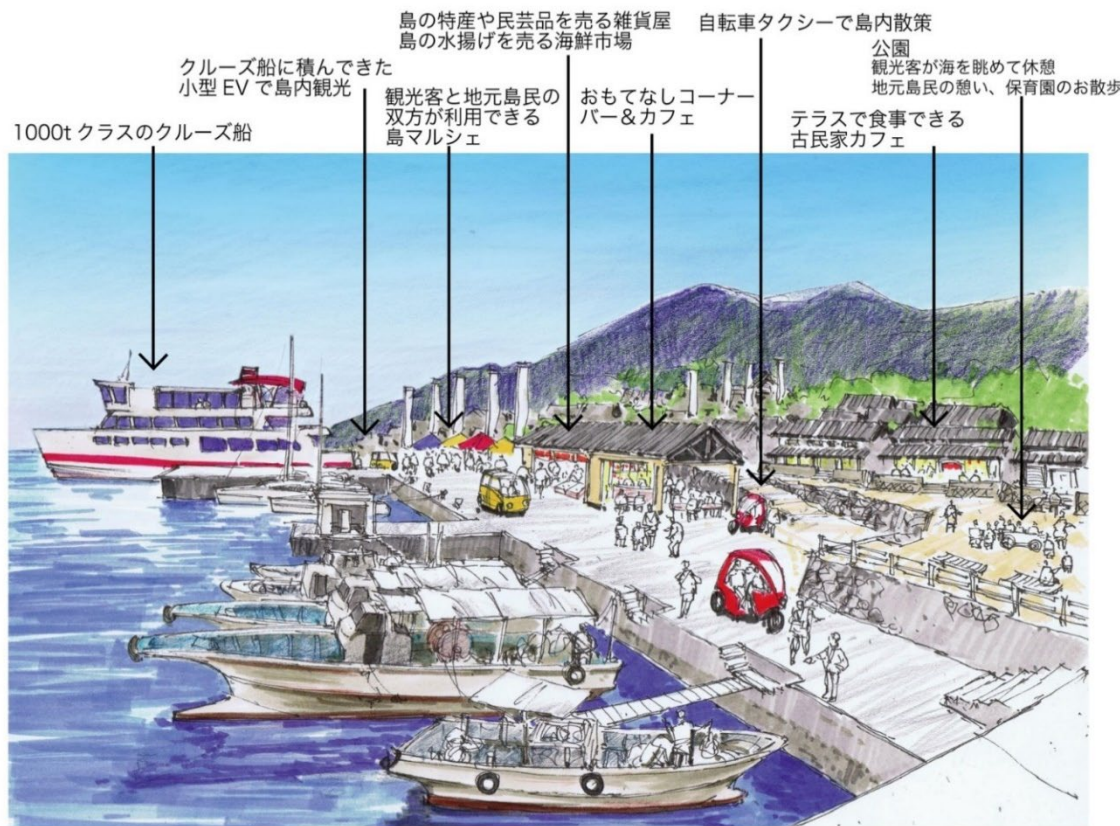
観光客と住民が共生するみなとまち

クルーズ客が
期待する
みなとまち機能

小型クルーズ
寄港を想定した
リーズナブルな
着岸施設

寄港地の情報を
お知らせする
情報提供施設

EVカーシェア、
レンタサイクルなど
2次交通拠点



住民が
期待する
みなとまち機能

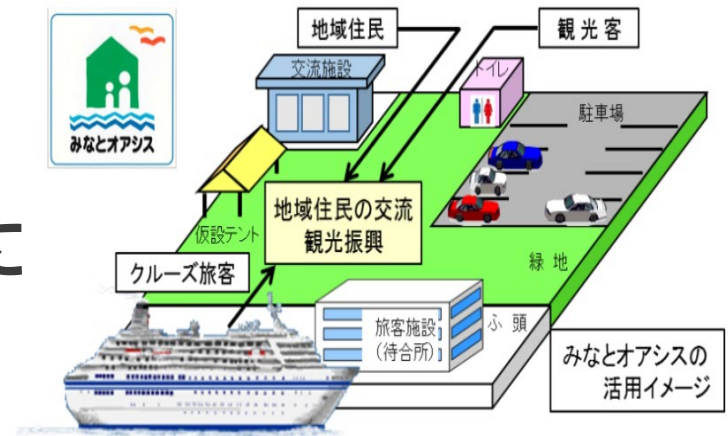
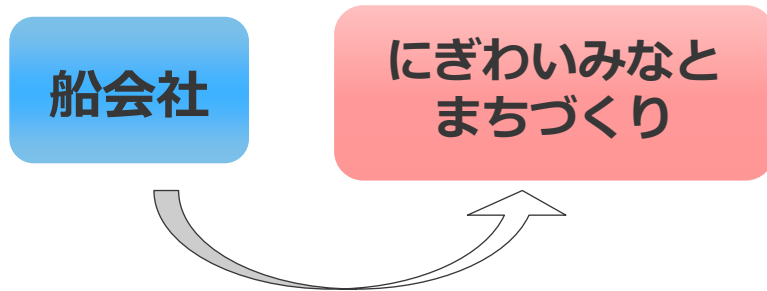
島民・観光客
双方が利用する
飲食・商業拠点

島民の日常利用が
可能な公的施設
(公民館/役場/
図書館等)

災害時に活用可能な
マルチユーススペース
(日常：公園、
寄港時：受入広場)

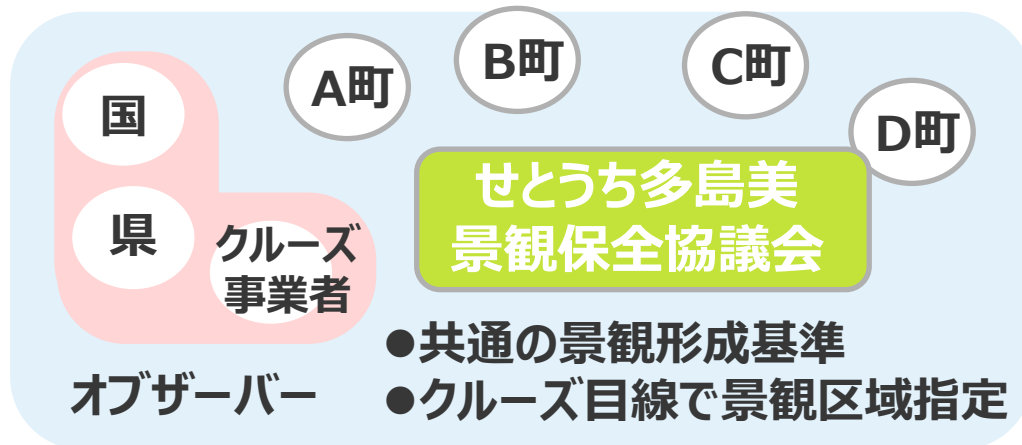
提言3 「にぎわいみなとまちづくり」を進めるしかけ

- ◆ 「みなとオアシス」の活用
- ◆ 寄港に伴う収入をみなとまちづくりに



みなとまちづくりにかかわる
支援制度の一例

- ◆ せとうち多島美にふさわしい景観形成基準の策定



京都府伊根町

提供：photo AC
13

3つの提言の実現ステップ

ステップ1 » ステップ2 » ステップ3

提言1 島たび プラット フォーム

WGの設立
事業モデルの検討
運営母体の具現化

島たび プラット フォーム の 設立 ・ 運営

マッチングによる
新たな多島クルーズ事業の推進

提言2 せとうち プラチナ クルーズ

事業性
検討

運営地域事業体の
立ち上げ、事業化

提言3 にぎわい みなとま ちづくり

推進方策
検討

推進協議会の
立ち上げ、条例化
国による先行モデル事業
の実施

【瀬戸内クルーズネットワーク構想】 検討者名簿

※敬称略

■チームリーダー

越智 修 (五洋建設(株) 専務執行役員 土木部門担当)

■メンバー

(50音順)

石崎 晶子 (パシフィックコンサルタンツ(株)
経営戦略室 チーフプロジェクトマネージャー)

塩崎 正孝 ((株)IHI 顧問)

中嶋 さやか (五洋建設(株) ICT推進室 BIM/CIMグループ 担当課長)

水谷 誠 ((一社) 日本建設業連合会 常務執行役)

村田 浩隆 (五洋建設(株) 横浜営業支店 支店長)

吉川 正嗣 ((株) 建設技術研究所 顧問)